

2013年8月22日

アメリカ合衆国大統領
バラク・H・オバマ 殿

日本原水爆被害者団体協議会

米国のZマシンによる核実験に抗議する

米国のエネルギー省国家核安全保障局の報告書で、今年4月から6月の間にZマシンを使った核実験を行なったことが明らかになった。

68年前の8月、広島と長崎で、人類史上初めて原子爆弾の攻撃を受けた私たち被爆者は、自らのからだに心を受けた深い傷を抱えながら、ふたたび被爆者をつくってはならないという強い決意のもと、一日も早い核兵器の廃絶をもとめて世界に訴えつづけてきた。

今年3月オスロで開催された「核兵器の非人道性に関する国際会議」は、「いかなる国家も国際機関も、核兵器の爆発がもたらす人道上の非常事態に十分対処できる見込みはない」ことを確認し、4月に開かれた2015年NPT再検討会議第2回準備委員会では、「核兵器の人的影響に関する共同声明」に80カ国が賛同し、「いかなる状況下でも核兵器が二度と使われないことが人類生存の利益」だと表明した。

大統領は、6月ベルリンで演説し、新戦略兵器削減条約（新START）で定められた戦略核弾頭の配備数のさらなる削減をロシアに呼びかけた。一方で、核兵器の使用を前提とした実験をつづけ自国の核兵器を維持する姿勢を変えていないことに、私たちは、強い怒りを持って抗議する。

われわれは要求する

- 1) 「核兵器の使用と威嚇は国際法に違反する」とする国際司法裁判所の勧告的意見を真摯に受け止め、核実験の計画を永久に放棄すること。
- 2) 2009年4月プラハで行なった演説で言及した「核兵器のない世界」のすみやかな実現を図ること。
- 3) 核兵器廃絶のための国際条約締結に向けた多国間交渉をただちに開始すること。